

(様式1)

## 平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 017	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
<b>要望問題名</b> 果樹における気象災害被害軽減対策の確立	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本年は県下で3～4月にウメ、ナシで低温やみぞれによる着果不良や傷果の発生被害が認められ、現地では着果の確保や摘果、選果に例年以上の時間を要した。現地ではこの時期の被害として前例がほとんどないため、収穫への懸念が大きい。事前に気温の変化等で被害を予測する方法、傷の程度別摘果方法と収穫・出荷時の調製方法等について確立し、マニュアル化して指導者、生産者の技術指導に活用したい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術所    ③水産技術センター ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	果樹花き研究部
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合)			
<b>対応の内容等</b> 霜害の発生は周辺の地形等の局地的な環境にも影響され、代表的観測地点からの予測には限界があり、その対策についても今回のような広範囲に大きな被害をもたらす凍霜害では無いのが現状と考えられます。また、降雹被害は、平成18年度果樹試験研究成績書に降雹被害園の果実調査について傷の程度と販売の可否について報告がありますのでご参考ください。 マニュアルにつきましては、平成7年11月に「農業災害の技術対策マニュアル」が当時の農業技術課で作成されておりますのでご活用いただき、不足している部分については情報提供いたします。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			